



巻頭言

〆フクシ、(既存の福祉制度の枠組)を超える一を出発点に、社会福祉法人が地域住民の生活と経済を支える存在となるべく将来的経営を見据えてほしいー 2

介護と看護 大阪医科薬科大と共同研究 高槻けやきの郷デイサービスセンターー 3

「かがやき農園プロジェクト」(「農福連携プロジェクト」改め)いよいよ動き出すー 3

インドネシアから技能実習生来日 岩戸ホームー 3

子育て支援活動をアピール 認定こども園一津屋愛育園の保育教諭らー 3

少子化加速の時代 10年後にも生き残る展望を 保育部門幹部研修ー 4

「わらべうた」をテーマに公開保育 くるみ愛育園ー 4

大学と連携 地域福祉フィールドワークー 地域貢献の側面もー 5

職場見学会 福知山淑徳高校生26名受け入れ 岩戸ホームー 5

先輩からのメッセージー 4～5

鬼頭歩実さん(東生野愛育園)/福井希歩さん(ライフ・ステージ 夢咲)

サッカー人工芝コートにチビっ子イレブン 認定こども園一津屋愛育園ー 6

「吉川さんとあそぼう!」手作りおもちゃで園児と交流 認定こども園きりん愛育園ー 6

「認知症カフェ」ご家族ら誰でもお気軽にご利用を きりんデイサービスセンターー 7

敬老式典 オンラインでライブ配信 サンヒルズ紫豊館ー 7

トピックスー 8



社会福祉法人 成光苑

2023
秋号

お人形さんも飛行機見てるよ 伊丹スカイパークへお出かけ

ココリス(放課後等デイサービス)では8月17日、夏休み恒例の外出行事“伊丹スカイパーク”へ送迎車両でお出かけしました。

専用駐車場に到着すると、ちょうど飛行機が着陸するところ、子どもたちはフェンスに駆け寄りジェットエンジン音の迫力に大興奮、数分間おきの離発着を体感しました。「お人形さんも一緒に飛行機見る!」と可愛い人形を背負う子(写真)、興味深くジューッと飛行機を見つめる子らそれぞれの夏の思い出ができたようです。



地元の和太鼓会も力強く演奏

ライフ・ステージ 舞夢では7月22日、由良ゆら夕涼み会を開催しました。感染対策のため施設内への入場制限を行いました。

第1部のゲーム屋台の魚釣り的人气で、磁石付きの竿で魚を釣り上げ「大漁!」と大喜びされるご入居者も。第2部は地元の「社堂奥和太鼓会」(写真)が山間に響き渡る力強い演奏を披露され、恒例の打上げ花火ではご入居者とそのご家族、地域の方も観覧され拍手と歓声に包まれました。



地震がきたらアヒルのポーズ! 消防署員招き防災と花火教室

認定こども園きりん愛育園の4.5歳児クラス(計104名)は6月19日、吹田市消防本部東消防署員3名を招いて開いた「おもちゃ花火教室」に参加しました。

防災の話では、地震:頭を守るあひるのポーズ(写真)、火事:口を隠すタヌキのポーズ、ー 動物になって身を守ることを教えてもらいました。

園庭では花火の際の約束や持ち方などを実践。最後の打ち上げ花火に大歓声が上がりました。



親子遠足「公園で遊ぼう」

くるみ小規模保育園は9月16日、親子遠足「公園で遊ぼう」(東大阪市・三ノ瀬公園)を実施、8名の親子が参加されました。日頃の散歩コースの同公園は自然豊かで広々としており市民の憩いの場となっています。

親子でダンス、体操、しっぽ取りなどゲームを楽しみ、保育スタッフが考案した新聞紙シアターでは“ペンギンのゲンちゃん(バベット)”も飛び入り参加(写真中央)。新聞紙が帽子や船などに次々と変化すると「スゴイ!」と保護者から歓声も聞かれました。



〔法人理念〕

1. 個人の尊厳を旨として、その人にふさわしい最善のサービスの提供に努める。
2. 地域に開かれ、愛され、地域福祉の拠点となる施設経営を目指す。
3. 専門的知識、技術の研鑽に努め、誇れる施設を目指す。

〔サービス目標〕

1. オンリーワンとナンバーワンを目指す。
2. オンリーワンとはその施設にしかない特色の創造であり、ナンバーワンとはご利用者の処遇の満足度を高めるため、常時積極的な取り組みをすることである。

〔愛育園経営方針〕

1. 新しい時代に生きる力の基礎を培う。
2. 女性の社会参加の支援に貢献する。
3. 地域子育て支援を積極的に行い、子どもの成長を喜ぶ社会の実現に寄与する。

〔高齢者施設経営方針〕

1. 安らぎのある生活と環境を提供し、生きる喜びを創造する。
2. 介護機能の多様化を図り、ご利用者に対し、総合的なサービスの提供をする。
3. 地域の一員として、地域福祉の活性化に貢献し、超高齢社会のセーフティネットの機能を発揮する。

〔障がい施設経営方針〕

1. その人らしく健やかにともに暮らし、希望をもって社会参加できる環境を提供する。
2. 地域の中で個々のニーズに合った専門性の高い総合的なサービスを提供する。
3. 地域にあって良かったと誰もが笑顔で過ごせる、信頼される施設運営を目指す。

【発行日】2023年10月

【発行】社会福祉法人 成光苑(理事長 高岡 國士)
〒566-0001 大阪府摂津市千里丘3丁目16-7
TEL.06-6330-3776 FAX.06-6388-9551
URL. <https://swc-seikouen.or.jp/>

★「ききょう」の由来

創業者が愛した京都府福知山市は、冷泉を利用して地元に開放するお風呂を作り、当法人として老人施設を初めて開設した地。その福知山市の花である「桔梗」から名づけられました。「ききょう」の花言葉は「変わらぬ愛」「誠実」「感謝」「気品」。

QRコードで簡単アクセス!



巻 頭 言



「ブックシ」(既存の福祉制度の枠組)を超える―を出発点に、社会福祉法人が地域住民の生活と経済を支える存在となるべく将来的経営を見据えてほしい

理事長 高岡 國士

日ごろから社会福祉法人成光苑の事業推進にあたり、皆様の多大のご協力とお力添えいただき感謝とお礼申し上げます。

岡田阪神の「ARE」に込めたスローガン
積年の努力が功を奏し、2023年、18年ぶりに応援している阪神タイガースがリーグ優勝を果たしました。阪神のスローガンとして、個人やチームが明確な目標に向かい(Aim)、野球や先輩に対して敬う気持ちを持って取り組み(Respect)、パワーアップしていく(Empower)ことで最高の結果を残すという思いを込めたことです。これらの3つの頭文字を合わせて、「優勝」の隠語として「アレ(ARE)」と表現され、常用されました。年間にして143試合を戦い抜くプロ野球選手が、健康に十分留意するのはプロとして当然であります。

重要であり福祉に通じるものと考えます。
私たち成光苑が取り組む社会福祉事業(保育・高齢・障がい分野)を推進するにあたって、関わる全ての人々の「健康」というスローガンを媒介として、法人理念に基づく様々な事業活動を展開していくことが重要であると考えます。

会福祉基盤を強化する―というものでした。
当法人としても、取り巻く社会経済情勢の変化に機敏に対応しながら法人(園・施設)の将来的経営を見据えてほしいと思います。

「孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」に入会

厚生労働省が8月に公表した「厚生労働白書」によると、コロナ禍で人々の孤独・孤立の問題が深刻化し、多様なアプローチで支援する必要があるとの見方を示しました。当法人も、このほど遅ればせながら、内閣官房が設置した「孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」へ入会致しました。孤独・孤立に関する多様なNPO等支援組織間の連携及び官民連携を促進することにより、コロナ禍で顕在化した孤独・孤立の問題に継続して対応していくことの一助になれば幸いという思いであります。

福祉従事者への敬意と魅力ある職場づくり
―全国社福法人経営者大会宣言
令和5年9月21・22日にかけて第42回全国社会福祉法人経営者大会に参加しました。多くの社会福祉関係者が全国から神戸の地に参集し、史上初めて1500名を超えた大会となりました。この大会を新たな出発点として、わがまちの未来を切り拓き、いまある「ブックシ」を超えていくために、大会宣言が採択されました。私たち社会福祉法人は、①常に人権を尊重し、福祉サービスの質向上に向けた不断の努力を重ねるとともに、地域ニーズに対応した多角化・多機能化を進め、誰一人取り残さない持続可能な社会の実現を目指す②エッセンシャルワーカーであるすべての福祉従事者を敬意をもって大切に、多くの人々が働きたいと思う魅力ある職場をつくる③既存の福祉制度の枠組を超え、社会福祉法人が地域住民の生活と地域経済を支え、社会を牽引する存在となるべく、全世代型社会保障制度の構築と社

「健康」の持続を媒介に事業活動の展開を
世界保健機構(WHO)で、1947年に採択されたWHO憲章前文に「健康」を定義しており、「健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること」と定義されています。この肉体的にも精神的にも、社会的にも満足な状態が持続することが

量値を比較し考察。「有効性が数値(データ)で分かるので結果が楽しみ」とケアスタッフの声も。今後も介護の専門職として身近なテーマを用いた他分野(看護)の取り組みとも連携し高齢者支援を続けたいと考えています。

大阪医科薬科大看護学部と共同研究
「介護の脳トレ評価」をテーマに

高槻けやきの郷デイサービスセンター

高槻けやきの郷デイサービスセンター(高槻市、定員40名)では、同市内の大阪医科薬科大学看護学部からの協力要請を受け、8月から3ヶ月間、共同研究を行っています。高齢者やそのご家族への健康支援のあり方、老年看護学の専門的視点の必要性について探究するのが目的です。



研究テーマは「医学的視点から、介護の脳トレを評価」です。具体的には同センターでご利用者がレクリエーションで行っている「脳トレゲーム(*)」。ご利用者の頭部に脳血流量測定機器を装着(写真)、個人と集団で同じゲームをした場合の脳血流量

(*)脳トレゲーム「脳力トレーニング」の意味で、本来は認知機能を改善し記憶力や集中力などを鍛えるトレーニング

インドネシアから
技能実習生受け入れ

岩戸ホームでは、10月12日からインドネシア共和国から技能実習生(1名)を受け入れ、グローバル化が活発になっています。
インドネシア人は温厚で明るくフレンドリーな人が多く、日本語学習者数が世界で2番目。日本で学びたい、日本語を勉強したい人が多いといわれています。
同施設では現在、すでにベトナム人技能実習生(6名)、同特定技能:介護(4名)が在籍し、介護業務と並行して日本語能力向上のため勉強会にも積極的に参加、日本での長期滞在を目的に介護福祉士国家資格取得を目指している方もおられます。同施設では引き続き異文化を理解し合い、外国人スタッフが不安なく働けるようサポート・育成したいと考えています。

介 護 と 看 護

子育て支援活動をアピール

南摂津駅(大阪モノレール)周辺で
親子教室への参加呼びかけ



認定こども園一津屋愛育園では7月7日、子育て支援担当の川崎純子保育教諭らが大阪モノレール南摂津駅と連結する商業施設周辺の親子に「七夕制作キット」(写真)と子育て支援活動PRチラシを配布、子育て支援室・園庭の開放や親子教室、季節イベントへの参加をアピールし、「お気軽にお越しを」と呼びかけました。

当日は8組の親子から「活動を知らなかった」「ホームページで知っていたが、参加する勇気が…」などの声を聞くことができました。
この日の活動の甲斐あって、同月の子育て支援室開放に参加され「あの時、声をかけてもらいよかった」と嬉しい言葉も聞かれました。次回は12月頃、「クリスマス制作キット」を配布する予定です。

10月中旬から岩戸ホーム

「かがやき農園プロジェクト」(「農福連携プロジェクト」改め)

“食感”は上々!

社会福祉法人成光苑は「かがやき農園プロジェクト」を進めています。福知山市の農家が参加する天座農地管理会から8月17日、吹田竜ヶ池ホームに地元産精米10キロを試食用に提供され、同施設では早速“おにぎり”にして味わいました。

スタッフ3名が、厨房で炊きあがったご飯を地域交流スペースのキッチンを活用しおにぎりづくり(写真)。約100個を作り、当日出勤のスタッフに配られ試食、「ご飯の食感もよく、美味しい」と評判は上々。同プロジェクトでは天座農地管理会と連携、ご入居・ご利用者が消費されるお米の購入計画を進めており、「大いに地域貢献に繋るのでは」と期待が寄せられています。



施設スタッフ参加し耕作放棄地を畑地に改造

社会福祉法人成光苑は「ききょう」前号(夏号)で「農福連携プロジェクト」の推進を発表しましたが、その後の同プロジェクト会議で「かがやき農園プロジェクト」と名称を変更、いよいよ活動をスタートさせました。

大阪エリアでは9月11日、3年間事業計画に基づき、実施地(茨木市佐保地区)の耕作放棄地(*)で各施設のスタッフら18名が参加し草刈り作業(写真)を行いました。当日は高岡國士理事長も駆けつけ「活動が始まる記念すべき日。水分補給、ケガにも気を付けて」と労われました。
作業は約2時間、雑木や雑草を草刈り機で処理、水田風景を思わせる地形と石垣がわかる程度に整備されたところで終了。10月以降は重機を入れ耕作、防護柵や防鳥獣ネット設置を予定、来春の畑完成を目指します。



(*)耕作放棄地 所有されている農地のうち、過去1年以上作付けされず、この数年の間に再び作付けする考えのない耕作地

いよいよ活動スタート

先輩からのメッセージ



福井 希歩

ライフ・ステージ 夢咲
2023年度入社

— 自分のどんな所が今の仕事に生きていると感じますか？—
相手の目を見て明るく話すことが、そのような姿勢で接することで、ご入居者とも笑顔でお話しすることができ、安心してくださることが多いと感じます。
私が暗く不機嫌そうだと、伝えたい大事なことも言えない冷たい関係になってしまうと思う。ご利用者にも安心した生活を送っていたために、日頃から明るくポジティブでいることを心がけています！

相手の目を見て明るく話す姿勢で接したい

— 学生の皆さんにメッセージを—
私は介護の知識があまりない新卒（社会福祉士）から働き始めました。わからないことが多く不安でしたが、先輩に聞きやすく、丁寧に指導してくださる職場環境なので、初めの不安はすぐに解消されました。
私はご入居者の笑顔を見るだけでも、介護の仕事に就いて良かったと実感しています。社会人として働くことに不安は付き物ですが、目標を持って頑張れば、周りには頼れる先輩方がいるので大丈夫。残りの学生生活を楽しんでください。

聞きやすく丁寧な先輩の指導に不安解消

大学と連携 地域福祉フィールドワーク — 人材育成&地域貢献の側面も —

せつつ桜苑には 大阪人間科学大から20名

高齢者施設の知識を深める スタッフの働き方など率直な質疑応答

大阪人間科学大学の社会福祉学科1年生20名が8月9日、せつつ桜苑に来訪されました。高齢者施設の知識を深めるフィールドワークの一環です。

学生さんたちは、藤原義章施設長から法人の沿革や施設の役割について説明を受けた後、施設内を見学されました。

学生さんからは、正規・非常勤、シフトなどスタッフの働き方、残業の有無、さらに介護電動リフトの実践ではその価格にも興味を示されるなど率直な質疑応答が交わされました(写真)。

同施設ではこれまで同大学とは講師を派遣するなど連携を深めていますが、地域貢献の側面も踏まえ、今後も様々な学校と連携を図りたいと考えています。



佛教大「新井ゼミ」の学生ら 岩戸ホーム来訪

「オンデマンド講義」のゲストスピーカー参加要請も —京都エリアスタッフ 感染症対応の家族面会室に—

佛教大学社会福祉学部の新井康友教授が8月31日、担当ゼミ学生を伴い岩戸ホームを来訪されました。地域福祉フィールドワークの一環で、地域の人々の暮らしを支えるため何ができるかを考える取り組みとされています。

新井教授らは井上裕太介護係長から概要説明を受けた後、施設を見学。昨年10月完成の感染症対策仕様の家族面会室(「ききょう」2023年新年号に記事)の設備に関心が寄せられました。

同施設では特に成光苑が推進する「地域貢献活動」、地域に愛される施設づくりの説明を行いました。今回の来訪を機に、同大学の講義「現代福祉と社会」(オンデマンド授業)に成光苑京都エリアのスタッフがゲストスピーカーとして録画収録に参加することが決まりました。

なお、成光苑内(大阪・京都エリア)に同大卒業生が在職、また参加学生に京都北部エリア出身者もいることが縁で同大との連携が実現しました。

先輩からのメッセージ



鬼頭 歩実

東生野愛育園
2023年度入社

— 自分のどんな所が今の仕事に生きていると感じますか？—
私は人を観察することが好きなので、子どもの様子をよく見て、その日・時の気分や発達に合わせた声掛けや誘い掛けをするように工夫しています。
「着替えたくない」、そんな時は、どんな促しをすれば自分で着替えられるかを考えています。担当する2歳児は、イヤイヤ期の子どもの多いので大変ですが、気持ちを受け止めながら日々頑張っています。

— 学生の皆さんにメッセージを—
4月より新卒入社し、2歳児を担当しています。日々の保育で、子どもとの接し方に悩む時がありますが、先輩の先生方の接し方を見て学んだり、直接アドバイザーをもらいながら子どもとの接し方を工夫しています。
まだまだわからないこともありますが、自分が試した接し方で上手くできた時は、子どもたちもたくさん笑顔を見せてくれ、私も自信に繋がっています。残りの学校生活を楽しく過ごせるよう応援しています。

自分の接し方で子どもたちが笑顔を見せてくれる、自信になりますね

集合対面形式で実施

「キャリアアップステージ研修I、II」 高齢者部門

高齢者部門ではこれまでオンラインで行っていた「キャリアアップステージ研修I(以下研修I)」 「キャリアアップステージ研修II(同研修II)」を3年ぶりに集合対面形式で開催しました。講師は増田知乃氏(有限会社レイズ取締役)。

「研修I」(8月18日:岩戸ホーム会場)は主に部署リーダーを担う中堅スタッフ(17名)を対象に、チームの中で上司と部下とのパイプ役となるための面談法やコミュニケーション技術がポイント。リフレクションカード(ルールに従い仲間や自分の一面に気づくこと)を用いたグループワークでは、大阪・京都のスタッフが対面し熱のこもった意見交換を繰り広げました。

「研修II」(9月13日:せつつ桜苑会場、同25日:岩戸ホーム会場)は、各施設の全ての主任・係長(50名)が対象。地域貢献活動などの社会的使命を背景に、SDGsとESG(*1)に対し理解を深めるのが狙い。先駆的なSDGsの取り組みを調査して持ち寄り、「SDGs17のゴール」(*2)と成光苑の事業との合致点を出し合い、職場の活性化とSDGs推進とESG経営の目標設定を考えるきっかけとなる内容でした。

福祉・介護職の職場見学会

福知山淑徳高校生26名受け入れ 岩戸ホーム
グループのサンヒルズ紫豊館から特製弁当差し入れ

岩戸ホーム(福知山市)は8月28日、北京都ジョブパーク(*)の協力で福知山淑徳高等学校の学生26名(1年生13名、2年生13名)の福祉施設職場見学を受け入れました。若い世代にも福祉・介護の仕事に興味を持ってもらえる情報発信の場が狙いです。

学年ごとにパワーポイントを利用、1年生には福祉・介護について、支援を必要とする方の「生活を支援する」「自立を促す」仕事であり、「人のために役立つ」という喜びが実感できる仕事」とアピール。2年生には、福祉・介護業務の多職種連携や役割、福祉機器を活用したケアの普及、サービスの種類や賃金も他産業と比較して遜色ない水準など踏み込んだ内容で、みなさん熱心にメモを取られていました。ご入居者と会話する機会も設けられ、お互い話はずむ光景も。

なお、法人内のサンヒルズ紫豊館(同市)から昼食に特製弁当の差し入れがあり、「めっちゃおいしい!」の声も聞かれました。



特製弁当

(*)北京都ジョブパーク(京都労働局) 京都府北部地域(福知山市・舞鶴市・綾部市・宮津市・京丹後市・伊根町・与謝野町)で就職相談、セミナー、職業紹介、就職後の定着フォローまでワンストップで支援する公的就労支援施設

子どもの発達に大切な遊びを体感 姉妹園保育スタッフら迎え

くろみ愛育園では8月28日、姉妹園の保育スタッフ5名を迎え、「わらべうた」をテーマに公開保育(*)を実施しました。

初めに、各クラスのわらべうたの実践保育を見学。その後の座学研修では、赤ちゃんへの“あやうた”が、赤ちゃんの発達と合致していること、わらべうた遊びが幼児期から学童期の心と体の発達に大切な要素を含んでいることなどを学びました。実際に15曲程度で遊んでみると、「やっているうちに思わず童心に帰った」と笑顔も見られ、わらべうた遊びの面白さを体感できました。

(*)公開保育 保育スタッフ同士が専門的知識・技術を習得し相互理解を深める場のこと。



くろみ愛育園

姉妹園スタッフとの様子

防犯講習 スタッフ対象に不審者対応 認定こども園一津屋愛育園

認定こども園一津屋愛育園は8月10、18の両日、摂津警察署員2名を招きスタッフ対象の防犯講習(不審者対応)を受講しました。



同署員は、通報から警察官が現場到着するまでのレスポンスタイム(応答時間)8分間をどのように対処するか、不審者を園に入れない対策などについてパワーポイントで詳しく解説。ポイントは、「一人に対応しない」「不審者に背を向けず1.5m距離をとる」「戦うのは警察官で、スタッフは決して戦わない」など。「さすまた」の使い方(写真)や腕を掴まれた時の護身術も実践的に学びました。

レスポンスタイム＝応答時間

少子化加速の時代に立ち向かおう

10年後にも選んでもらえる愛育園を目指す

グループワークで実効計画立案も 保育部門幹部研修

保育部門では7月29日、高岡國土成光苑理事長、春本繁子同参与を講師に迎え、幹部スタッフを対象に幹部研修を実施しました。「設立来、大切にしてきたこと。また、これからの10年を見据えて(～地域に開かれ、愛され、地域福祉の拠点となるために～)」をテーマに、成光苑の保育の原点に立ち回り、今後10年の展望、愛育園が生き残るために必要なことなどを考える機会となりました。

冒頭、「千里丘愛育園70周年記念動画(2021年度制作)」を視聴、愛育園の歴史や法人設立の想いが伝えられ、スタッフインタビューなども収録。高岡理事長からは「今後ますます少子化が加速し保育園の在り方が問われている。10年後にも選んでもらえる保育園であるための取り組みを考えたい。幹部スタッフは園長を助ける存在となり、他のスタッフに愛育園で働くことに誇りをもってもらえるように伝える役割をお願いしたい」と幹部スタッフへの期待を述べられました。

各園のグループワークでは「これからの10年を見据えて何をすべきか」の実効計画を立案し、事業所の現状把握、地域の人口動向など広い視野で展望を話し合い発表しました(写真)。



「認知症カフェ」(「きりんぽかぽかカフェ」)

■ 当事者、ご家族ら誰でもお気軽に きりんデイサービスセンター

きりんデイサービスセンター(認知症対応型)は7月30日、3年ぶりに「きりんぽかぽかカフェ(認知症カフェ)」を開催(毎月第3日曜日午前10時～12時)、認知症の当事者2名、認知症の方のご家族4名、民生委員1名計7名が参加されました。摂津市広報課から当日、取材(写真「広報せつつ」9月号)のため来訪され、同市の認知症への関心の高さが伺われました。認知症の当事者だけの参加ではなく、医療・介護の専門職や地域の方など誰でも立ち寄ることができ、お菓子やお茶を楽しむ交流の場です。参加者は初対面、スタッフから認知症の「あるある話(認知症事例)」をわかりやすく描写表現、ご家族から「うちはこう(症状)」 「うちもよ」など参加者同士で話が弾みました。悩みを抱え込まずに気軽にお運びを。

【お問い合わせ】きりんデイサービスセンター(摂津市千里丘3-16-7) 電話:06-6190-1751

台風7号の被災地復興

災害ボランティア活動に参加
ライフ・ステージ 舞夢のスタッフら

ライフ・ステージ 舞夢・舞鶴市加佐地域包括支援センター(舞鶴市加佐デイサービスセンター併設)の藤田元在宅課長ら3名のスタッフは8月19、21、22の3日間、台風7号による大きな被害を受けた同市内の被災地復興の災害ボランティア活動に参加しました。事業所のサービス提供エリアの加佐地区にも甚大な被害がもたらされました。舞鶴災害ボランティアセンターが開設(8月17日～)され、作業協力者の募集に応じ災害ボランティアに登録。泥出し、家具などの移動、室内外の清掃など(写真:舞鶴市提供)、またご利用者とその家族の安否確認にも努め、緊急サービス(ショートステイなど)利用提案も行いました。幸い人的被害はなかったものの、元の生活に戻るには時間がかかるようです。



敬老のお祝い

オンラインでライブ配信 サンヒルズ紫豊館

サンヒルズ紫豊館で9月10日、長寿の節目(100歳)を迎えられたご入居者とそのご家族を招き敬老式典・祝賀会が行われましたが、初の試みとして式典の様子をオンラインでライブ配信されました。式典でご入居者が、岩吹奏志施設長からお祝いの記念品を笑顔で受け取られる場面(写真)も。祝賀会ではスタッフが日本舞踊を披露。刺身、てんぷら、栗ご飯など特別料理も出され、高齢者のみなさんをお祝いしました。

式典会場と各ユニットを繋ぎオンライン中継



ライフ・ステージ 舞夢でも9月7日、敬老式典が行われ、最高齢入居者(104歳)1名、白寿(99歳)3名らのほかご家族も出席され長寿のお祝いを受けられました。新型コロナが5類感染症に移行したといえ密を避けるため、各ユニットと会場となった会議室をオンラインで中継(写真)、各ユニットに設置してある大型テレビに繋ぎ、高齢者みなさんリアルを体感、大好評でした。なお、同日、グループのライフ・ステージ 夢咲でも敬老式典が行われました。



ライフ・ステージ 舞夢



最新の「110番映像通報システム」活用を!

防犯研修、火災避難訓練実施 サンヒルズ紫豊館

サンヒルズ紫豊館は9月12日、防犯研修と地震発生で火災が発生したという想定で夜間避難訓練(写真)を行いました。福知山警察署員から講義を受けた防犯研修でのポイントは、日中でも不審者を見かけたら戸締りを行うことや建物内への侵入を防ぐこと、また、最新の「110番映像通報システム」についても説明があり、スマートフォン・タブレット端末のカメラ機能からの通報システムがあることを知る機会となりました。火災の夜間避難訓練では、参加したスタッフから「火災受信機を使用した通話や消防署とのやり取りなど、手順(マニュアル)を理解していても慌てることがある、落ち着いて対応するのが基本」と振り返る声が聞かれました。



4年ぶりに 家族懇談会実施

吹田竜ヶ池ホーム 大きな家族(施設)で会話楽しむ

吹田竜ヶ池ホームでは6月17、18の両日、地域交流スペースで家族懇談会を実施しました。新型コロナの5類感染症移行に伴い、ご家族との懇談は4年ぶり。その間に同施設ではスタッフの出入り、ご入居者の入退去もあり、あらためて佐藤裕之施設長が挨拶、尾園洋平生活相談員の説明に続いて、担当スタッフの自己紹介・スピーチも行われました。ご家族からは「スタッフの趣味・嗜好も知ることができ新鮮だった」との感想も聞かれました。ご入居者・ご家族にとっては、施設という「大きな家族」として会話を楽しまれ、ようやく平常に戻ったことを実感されるひとときになったようです。

出番だよ! 稽古を積んだ和太鼓演奏

認定こども園正雀愛育園の5歳児クラスは日ごろ稽古を積んでいる和太鼓演奏が引っ張りだこ。阪急正雀駅前広場の特設ステージで3年ぶりに開かれた「たそがれコンサート」(8月26日、味舌地区連合自治会主催)、摂津市民文化ホールで行われた「老人福祉大会」(9月13日、摂津市主催)、地域の1人暮らしの方が利用される長命会・長楽会の高齢者14名を招いた「敬老会」(9月14日)、でそれぞれ和太鼓演奏を披露しました。「たそがれコンサート」は久しぶりの野外演奏(写真)。堂々とした演奏に大きな拍手が送られました。「福祉大会」の演奏後に「頑張った!」と胸を張る園児らの姿に、応援に駆け付けた保護者から「成長を感じました」との声も。一人暮らしの高齢者を招いた「敬老会」は初めての試み。手遊びや和太鼓演奏に「若さ(元気)をもらいました」と喜びの声が聞かれました。



「吉川さんとあそぼう!」 ～ 手づくりおもちゃで園児と交流 ～



認定こども園きりん愛育園(吹田市)に6月26日、地域に在住の吉川誠さん(80歳)が来園、題して「吉川さんとあそぼう!」が開かれ、5歳児クラスと手作りおもちゃの制作活動(年4回)を楽しみました。今回は「羽ばたき、ペンギンと紙コップ」づくり。吉川さんから組み合わせや飛ばし方(写真)を教えてもらい、手作りおもちゃの楽しさを体感しました。吉川さんは昨春参加した同園のお花見会で、スマイルサポーター(府認定地域貢献支援員)の保育スタッフに「手作りおもちゃを通して園児と交流したい」と相談され交流が始まりました。吉川さんが45歳の時、山をハイキング中に滑落、救出されたものの重傷を負い長期入院。「定年退職後は命を助けてもらった恩返しを!」と、NPO法人大阪府高齢者大学校(※)で社会貢献・地域活動について学ばれ、同市の小学校で児童と交流を持たれています。

(※)高齢者大学校 市町村が運営する高齢者向けの生涯学習事業。60歳以上が多く1年または2年の就業過程で社会貢献を目的に学習する

初めての本格人工芝コートにラビッツイレブン

認定こども園一津屋愛育園の5歳児(28名)は7月14日、大阪学院大学(第2グラウンドサッカー場)フットサルコート(摂津市千里丘)でサッカー練習を行いました。愛育園グループでは体育指導の一つにサッカーを取り入れています。日頃園庭で練習の園児たちは、初めての本格的な人工芝コートを前に大興奮。隣のサッカーコートではサッカー部員がマジ練習、「かっこいい!」と鋭いシュートやドリブルに目を輝かせていました。園児たちは同園専属の古川賢人サッカーコーチと鬼ごっこで体をほぐしたあと、4チームに分かれ試合をしました(写真)。今回、練習場をお借りできたのは、成光苑内の高齢者施設スタッフに同大サッカー部出身者が在籍していること、同大学がスポーツを通じて、地域との関わりを大切にする地域貢献を模索していることなどが重なったためです。



恒例「地藏盆」 子育て支援教室ご利用者の親子も招く

認定こども園千里丘愛育園の園庭で8月23日、恒例の地藏盆が行われました。新型コロナウイルスの5類感染症移行に伴い、今年は乳児クラス、幼児クラスの学年ごとの保護者や親子教室(子育て支援事業)を利用される親子も招き盛大に。盆踊りに先立ち、園舎正門前からお地藏様に園庭にお移りいただき、高岡國士園長(理事長)や参加された保護者と一緒に手を合わせ神妙にお参り。その甲斐あって降り出した雨もすぐあがり盆踊り(写真)を楽しみました。



園庭育ちのトマトでピザづくり

くるみ愛育園の1歳児クラス18名は7月25日、園庭で栽培のトマトを収穫しおやつ時間にクッキングを楽しみました。食育活動の一環です。トマトを使ってピザ作りがスタート。目の前で保育スタッフが包丁でカットする動きに「せんせい、これ(みんなで採った園庭の)トマト?」と聞くなど興味津々(写真左)。ピザ生地にトッピングを施し給食室へ。「焼いてくださーい」と調理スタッフにお願いし、焼き上がったピザが保育室に到着すると美味しそうなお匂いが立ち込めました(写真右)。「おかわり!」の手が次々とあがり、またたくうちに完食となりました。

